

(電子メール施行)
農技第2200号
令和6年3月13日

関係各位

兵庫県病害虫防除所長

令和5年度病害虫発生予察防除情報第9号を下記のとおり発表します。

タマネギ圃場で、べと病の発生を確認しています。今後、さらに発病の増加が懸念されますので、圃場での発生状況を定期的に観察し、「全身感染株（いわゆる越年罹病株）の抜き取り」と「薬剤防除」を徹底するようご指導願います。

令和5年度病害虫発生予察防除情報第9号

タマネギべと病の防除対策について

- | | |
|--------|-----------------------------------|
| 1 対象作物 | タマネギ |
| 2 病害虫名 | べと病 <i>Peronospora destructor</i> |
| 3 発生地域 | 県内全域 |
| 4 発生状況 | |

令和6年2月28日に淡路農業技術センター内に設置した発生予察圃場においてタマネギべと病の全身感染株が確認された。また、3月4日に関係機関が実施した淡路地域の現地調査において全身感染株の発生を確認している。さらに同日、病害虫防除所が行った巡回調査では、調査対象圃場での本病の発生は確認されなかったが、調査圃場周辺において全身感染株の発生を認めている。

5 今後の予想

今後の天候は、近畿地方の1カ月予報（大阪管区气象台、令和6年3月7日発表）によると、気温は高く、降水量は平年並で、天気は数日の周期で変化すると予想され、本病の感染・まん延に好適な条件（気温15℃前後で曇雨天日が連続する）になる可能性があり、発病の増加が予想される。

6 本病の被害と発生生態について

- 本病は卵菌類に属するべと病菌による病害であり、前年秋の苗床や圃場に残った卵胞子がタマネギに感染し、大部分が無病徴のまま越冬（潜伏期間）して春期に全身感染株（写真1）として発病する。
- 栽培圃場においては、全身感染株が感染源となって二次感染株（写真2）が発生し、ひどい場合には葉が枯死する。
- 発病は感染に好適な条件が1～2日続く場合に助長される。好適条件においては、病勢の進展はきわめて速い。

7 防除対策について

- (1) 圃場の排水が悪いと発病を助長するので、明渠等排水対策を十分に行うこと。
- (2) 圃場を十分観察し、地域の防除暦や「タマネギべと病対策マニュアル（技術者版）」を活用して、全身感染株（写真1）の完全な抜き取りと薬剤防除を徹底すること。
- (3) 全身感染株の抜き取りにあたっては、本病の病徴は、圃場内で徐々に発現してくることに留意し、茎葉が繁茂するまで定期的に（1週間に1回程度）抜き取りを行い、適正に処分すること。特に前年べと病が多発生した圃場は十分注意すること。
- (4) 極早生・早生品種及びネギ圃場で発生したべと病が、周辺の中生・晩生品種の感染源になるため、地域全体で防除対策に取り組むこと。
- (5) 薬剤防除は、べと病のまん延を防ぐため、発病が無い場合も、防除暦に従って必ず行う。なお、薬剤散布にあたっては、降雨前に薬剤が乾くように余裕をもって行い、タマネギの生育に応じた薬液量とし、散布ムラの無いように丁寧に行うこと。
- (6) 薬剤については、地域の防除暦や兵庫県農薬情報システムを参考に選定し、農薬使用基準を遵守する。



写真1 タマネギべと病全身感染株



写真2 二次感染株

*兵庫県農薬情報システムは以下のURLに掲載

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

*この情報は、兵庫県病害虫防除所ホームページに掲載しています。

<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/>

兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222